

トップ1%論文表彰

所属	補職	氏名	論文名	学術誌名	発表年	論文の概要	URL
医学研究科	教授	間瀬 光人	Guidelines for management of idiopathic normal pressure hydrocephalus (Third edition): Endorsed by the Japanese society of normal pressure hydrocephalus	Neurologia Medico-Chirurgica	2021	高齢者において歩行障害、認知機能障害、尿失禁を来す種々の疾患の中で、特発性正常圧水頭症 (iNPH) は非常に重要である。iNPH診療ガイドラインは2004年に第1版が、2012年に第2版が出版されており、本論文はその第3版である。本版ではNPHの新分類について、画像診断および治療方針決定におけるdisproportionately enlarged subarachnoid-space hydrocephalus (DESH) の意義について検討し、診断・シャント治療のアルゴリズムを作成した。またバイオマーカーによる鑑別診断についても言及した。	—
医学研究科	教授	飯田 真介	Oral ixazomib maintenance following autologous stem cell transplantation (TOURMALINE-MM3): a double-blind, randomised, placebo-controlled phase 3 trial	The Lancet	2019	自家造血幹細胞移植 (ASCT) 後の維持療法は、多発性骨髄腫患者の疾患進行を遅らせることができ、多発性骨髄腫患者の生存期間延長につながる可能性があります。イキサゾミブは、週 1 回の経口投与という簡便さと低毒性プロファイルから、維持療法に理想的な薬剤です。本研究では、ASCT 後の維持療法としてのイキサゾミブの無増悪生存期間の延長効果と安全性プロファイルを明らかにしました。	http://ncu-ketsuekishuyo.jp/
医学研究科	教授	齊藤 貴志	Microglial gene signature reveals loss of homeostatic microglia associated with neurodegeneration of Alzheimer's disease	Acta Neuropathologica Communications	2021	アルツハイマー病 (AD) の病態には、ミクログリアが介在する神経炎症が関与していることが指摘されている。加齢や神経変性疾患モデルマウスのミクログリアは恒常性維持のための表現型が失われ、疾患関連ミクログリア (DAM) の活性化を示すが、神経細胞損失の程度との相関は明らかにされていない。本研究では、代表的な3つの神経変性モデルマウスから分離したミクログリアのRNAseq解析を行った。	https://ncs-saitolab.com/ https://researchmap.jp/takasai